

ネイチャーウォッチングだより

令和5年10月2日(月)
愛知教育文化振興会
協力:岡崎女子大学・短期大学

9月30日(土)、A日程第2回のネイチャーウォッチングを開催しました。今回の親子自然体験は、「干潟の鳥ウォッチング」。田原市緑が浜公園前の海岸と、少し離れたところにある干潟を会場に行いました。まだ夏が続いているような強い日差しが降り注ぐ中、22組68名の親子の皆さんが、バードウォッチングと干潟の生き物観察を楽しみました。

今回の講師、日本野鳥の会会員の宇都宮森和先生によると、この海は流れ込む汐川の名前をとって「汐川干潟」といい、満潮のときは全面が海となり、干潮になると広大な干潟が現れるそうです。「汐川干潟は、小学校が30校くらい入るほど広いです。昔は現在の8倍くらいの面積があったのですよ」と紹介されました。ただ、最近は埋め立てが進み、干潟はずいぶん小さくなってしまったそうです。

宇都宮先生からは、クイズ形式で汐川干潟に野鳥が集まってくる理由や幼鳥と成鳥で姿が変わる野鳥、夏と冬で姿が変わる野鳥、オスとメスで姿が違う野鳥などについての話があり、多くの子が意欲的にクイズに答えていました。また、「鳥は絶滅した恐竜の子孫です」と恐竜の胃石を紹介されると、みんな興味深そうに手に取っていました。



クイズに答える子どもたち

続いて、双眼鏡やフィールドスコープ(地上望遠鏡)で干潟の鳥を観察しました。広大な汐川干潟の遠くにいる白いダイサギやアオサギをはじめ、

真っ黒なカワウや白いカモメの群れを観察することができました。また、竹の棒の先にとまっている鷹の仲間であるミサゴや、上空を飛ぶトビを見つけた親子もいました。



親子での野鳥観察

後半は、干潟の生き物観察です。砂と泥の干潟に下りて観察を開始すると、貝類やカニ、イソギンチャク、ヤドカリなど、汐川干潟にすむ代表的な12種類の生き物をカードを参考にして探し、見つけたらシールを貼っていきます。ウミニナやオキシジミなどの貝類や、チゴ



干潟の生き物の観察風景

ガニ、ゴカイなどが次々に見つかりました。12種類をすべて観察した子もいました。スナモグリを見つけた子は、周囲の注目を集めました。今回のネイチャーウォッチングを通して、干潟の自然の豊かさや生き物の関わりを実感できたなら幸いです。最後に参加者の声の一部を紹介します。

地元の海や川で見たことのある鳥も、双眼鏡をのぞいて見ると、見つけた時にすごくうれしくて、いつもとは違って見えました。(子)

親子そろって生き物好きですが、自分たちだけではできない経験ができ、さらに生き物に興味が増えました。また、知らない人たちと話すこともよい経験になったと思います。とても楽しい時間をありがとうございました。(母)



「スナモグリはこれ！」

初めてミサゴを見ることができて、うれしかったです。(子)

自分たちでは鳥の種類を調べるのが難しかったので、先生に教えていただきありがたかったです。いただいたシートを参考にして、また家族でバードウォッチングに来たいです。(母)

海が近くでない市に住んでいます。なかなか生き物を掘って探ることがないので、とても貴重な体験ができました。兄弟そろって初めてカニを触りました。おわりの会のときに、すごく楽しかったと笑顔で話す姿に親もうれしくなりました。(母)